

ネットワークを活用した家庭との連携に関する研究 ～端末の活用を通して～

県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当

1 はじめに

GIGA スクール構想によって導入された 1 人 1 台端末（以下端末）の活用は各地域、各学校の試行錯誤により、少しずつ広がりを見せている。しかし、家庭への持ち帰りによる学習活動や家庭との連携のために活用している事例はまだ少ない。

そこで、私たちは端末の家庭への持ち帰りに焦点を当て、これに関する効果的な活用方法や指導方法を明らかにするために本研究主題を設定した。

2 今年度の調査研究

今年度は実態調査に主眼を置き、千葉市を除く 5 教育事務所 53 市町村教育委員会に対して「1 人 1 台端末活用環境調査アンケート」を実施した。GIGA スクール構想を機に導入した端末（OS）やクラウド環境または各教室の ICT 機器環境、端末の家庭への持ち帰りに関わるものなどについて回答を求め、その集計、分析を行った。また、各教育事務所の計画訪問や要請訪問に同行し、現地調査として学校現場でどのように端末が活用されているか授業を参観した。授業では、意見共有や協働学習といった主要な活用場面で積極的な活用が図られ、児童生徒の意欲的な取組が多く見られた。

なお、アンケートの集計結果から得られた大きな三つの課題を以下に記す。

一つ目は、導入したクラウド環境や端末（OS）、さらには各市町村が独自で購入している教育支援ツール（いわゆるアプリ）や大型モニター等の導入状況など、各市町村での対応が様々で、ICT 機器に関わる指導環境に地域差があるということである。二つ目は、

端末持ち帰りの判断を学校に委ねている市町村が半数以上を占めていることである。実際の持ち帰り状況としては、毎日持ち帰っている市町村が全体の 1 割強で、逆に全く持ち帰っていない市町村が全体の 3 割強であるということが分かった。その背景にもなる三つ目は、端末の家庭への持ち帰りについて、破損や紛失など保守契約に関わる問題、セキュリティや活用方法など情報モラルに関わる問題、またネットワークへの接続や操作方法など家庭の協力が必要となるものなど、各地域で様々な問題を抱えていることである。

3 来年度に向けて

各市町村の指導環境や学習支援ツールに違いは見られるが、端末の活用場面として多く見られた意見共有や協働学習での活用は、無料クラウドの機能の中で実現可能なものもあり、学習環境の差を埋めるチャンスは十分にあると考えている。また、文部科学省通知にも「クラウド・バイ・デフォルト」とあるように、クラウドを効果的に活用し、学校での学習と家庭での学習のスムーズな連携を実現させる事例を検討していく必要があると考えている。

この二つの考えを軸に、来年度は研究協力校の協力をもとにした活用事例の有効性について検証を行っていく。

4 最後に

今年度の調査研究の内容は、令和 4 年 3 月下旬に当センター Web サイトに公開するので、より詳しい内容はこちらをご覧ください。

<URL> <https://www.ice.or.jp/>

[nc/kenkyu/houkoku/](https://www.ice.or.jp/nc/kenkyu/houkoku/)